

## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：フッ素樹脂分散液・エアゾール

製品名：テフ・リリース 420ml

製品コード：No. 6098

推奨用途と使用上の制限：耐熱離型剤・潤滑剤。ミスト、蒸気などを吸入しないこと。

会社名：株式会社 オーデック

住所：〒141-0022 東京都品川区東五反田 3-14-13 高輪ミュージビル

担当部門：耐熱化成品部

電話番号：03-6447-7461

FAX番号：03-6447-7405

E-mail：info@audec.co.jp

### 2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 ※分類対象外、分類できないは省略

エアゾール：区分2

引火性液体：区分外

急性毒性－経口、吸入：区分外

皮膚腐食性／刺激性：区分2

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：区分2A

発がん性：区分1A

生殖毒性：区分1A

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分1(中枢神経系、呼吸器)、区分3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分1(中枢神経系、肝臓、生殖器(男性))

水生環境有害性－短期間(急性)有害性：区分3

水生環境有害性－長期間(慢性)有害性：区分3

【シンボル】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

- ・可燃性／引火性のエアゾール
- ・高圧容器：熱すると破裂のおそれ
- ・皮膚刺激
- ・強い眼刺激
- ・発がんのおそれ
- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- ・臓器(中枢神経系、呼吸器)の障害

- ・眠気またはめまいのおそれ
- ・長期にわたる、または反復ばく露による臓器(中枢神経系、肝臓、生殖器(男性))の障害
- ・水生生物に有害
- ・長期継続的影響により水生生物に有害

【注意書き】

《安全対策》

- ・熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- ・裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
- ・使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
- ・取扱い後は手をよく洗うこと。
- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・必要な時以外は環境への放出を避けること。

《応急措置》

- ・皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
- ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ・ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること。
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。

《保管》

- ・日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。
- ・施錠して保管すること。
- ・換気の良いところで保管すること。

《廃棄》

- ・内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

成分名	含有率 %	CAS No.	官報公示整理番号	P R T R	備考
ジメチルエーテル	50～60	115-10-6	2-360		
塩化メチレン	35～45	75-09-2	2-36	1-186	
フッ素樹脂 (PTFE)	1.0～5.0	9002-84-0	6-939		
エタノール	1.0～5.0	64-17-5	2-202		
分散剤	1.0 未満	非公開	既存		
プロピルアルコール	0.5 未満	71-23-8、67-63-0	2-207		
酢酸ブチル	0.3 未満	123-86-4	2-731		

#### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を直ちに新鮮な空気の場所に移動させ、保温・安静にし、必要に応じ医師の診断を受けること。  
呼吸が不規則または止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行い、直ちに医師の手当を受けること。嘔吐物を飲み込ませない様にする事。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類、靴などを速やかに取り除き、製品にふれた部分を大量の水及び石鹸水で十分に洗浄すること。溶剤・シンナーは使用しない。  
皮膚等に変化が見られたり、炎症を生じた時には直ちに医師の手当を受けること。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な流水で15分以上洗眼した後、速やかに眼科医の手当を受けること。  
洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行き渡るように洗眼すること。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗眼すること。  
すぐに痛みが無く視力に影響が無くても障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 意識のある場合は、吐き出さずに水で口の中をよく洗い、直ちに医師の手当てを受けること。意識のない場合は、口から何も与えず、嘔吐物を飲み込ませない様にし、直ちに医師の手当てを受けること。
- 応急措置をする者の保護 : 適切な保護具(保護眼鏡、防護マスク、手袋等)を着用する。換気を十分に行う。  
医師に対する特別な注意事項 : 情報無し

#### 5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール泡消火剤、水噴霧  
使ってはならない消火剤 : 情報無し
- 特有の危険有害性 : 加熱により容器が破裂、飛散する可能性あり。  
熱分解または燃焼により塩化水素ガス、ホスゲン、一酸化炭素、フッ化水素、フッ化カルボニルなどの有毒ガスが発生する可能性あり。
- 特有の消火方法 : 周辺火災の場合は、容器を安全な場所に移動する。移動不可能な場合は、容器の破損が生じないように注水し、冷却する。容器が破裂、飛散する恐れがあるので、冷却作業は十分な距離をとって行うこと。  
過熱により容器から内容物が噴出した場合は、可能ならば容器を熱源から遠ざけ、大量の水を注水して冷却し、噴出が納まるのを待ち、消火活動を行うこと。  
滞留ガスに引火、爆発の危険があるので噴出が収まる前に火災を消してはならない。
- 消火を行う者の保護 : 容器の破裂、飛散から身を守るために十分な距離を取り、防護盾、ヘルメット等で身体を防護すること。  
熱分解により有害なガスやヒュームが発生することがあるので、適切な空気呼吸器や化学用保護衣を着用し、風上から対応する。

#### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意 : 漏れた付近の周囲から人を退避させるとともに、風下の人を退避させ、火災・爆発の危険を警告すること。
- 緊急時措置 : 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに、適切な消火剤を用意すること。  
屋内の場合は処理が終わるまで通風等により換気をよく行うこと。  
作業者は保護手袋、保護眼鏡、保護服、保護マスクを着用すること。

環境に対する注意：流出した内容物が河川等に排出されない様に注意すること。  
事項 漏出物を直接、河川や下水に流さないこと。  
封じ込め及び浄化：乾燥砂、土、その他不燃性の物に吸着させて、密閉できる空容器に回収すること。  
の方法及び機材 大量の流出には盛り土で囲って流出を防止すること。  
作業には火花を発生しない器具を使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
付着物・廃棄物等は関係法規に基づいて処置する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策 : 粉体成分が底に沈んでいるので使用前にカラカラと音がするまで容器をよく振ること。  
攪拌不足の場合、詰まりや最後まで噴射できないことがある。  
内容物の出る方向をよく確認してから使用すること。  
眼・皮膚・粘膜との接触を避け、蒸気、ミスト、粉塵などを吸入しないこと。  
保護手袋、保護眼鏡、保護服、保護マスクなど適切な保護具を着用すること。  
火気を使用している室内で使用しないこと。火気厳禁。  
炎に向けて使用しないこと。

安全取扱注意 : 使用中、直射日光の当たる場所や温度が40℃以上になる場所に放置しないこと。特に、  
事項 夏場の自動車内やコンクリート、砂地、路面上に置かないこと。  
容器の転倒、落下など衝撃を加えないこと。  
換気の良い場所で使用すること。  
狭い室内や車内では使用しないこと。  
人体に使用しないこと。  
床などに付着すると非常に滑りやすくなるので注意すること。  
用途以外には使用しないこと。  
その他、表示された使用上の注意を守ること。

接触回避 : 混触禁止物質を同じ場所では取り扱わないこと。  
衛生対策 : 情報無し

### 保管

安全な保管条件 : 涼しい、換気の良い場所で施錠して保管すること。

技術的対策 : 破裂の原因になるので、火気の近くや直射日光の当たる場所、温度が40℃以上となる  
ところに保管しないこと。特に、暖房器具の付近など熱気が当たる所や自動車内には置  
かないこと。  
換気の良い所に保管すること。  
錆の発生しやすい水、湿気の多い所に放置しないこと。  
子供の手の届かないところに保管すること。  
キャップをして保管すること。  
エアゾール製品は性質上、経年変化に伴い缶及び各部品が劣化し、ガス抜けが起こる可  
能性があるので、長期保管は避け、なるべく早めに使い切ること。  
その他、表示された保管上の注意を守ること。

混触禁止物質 : 「10. 安定性及び反応性」参照。

安全な容器包装材料 : 情報無し

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度： ※情報あるもののみ

成分名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)
塩化メチレン	50ppm	50ppm、170mg/m <sup>3</sup> (2018年版)	50ppm、174mg/m <sup>3</sup> (2015年版)
フッ素樹脂(PTFE)			3mg/m <sup>3</sup> (Dust;Respirable particles)
エタノール			1000ppm、1880mg/m <sup>3</sup> (STEL)(2015年版)
プロピルアルコール(IPA)	200ppm	400ppm、980mg/m <sup>3</sup> (最大値)(2018年版)	200ppm、492mg/m <sup>3</sup> (2015年版)
酢酸ブチル	150ppm	100ppm、475mg/m <sup>3</sup> (2018年版)	150ppm、713mg/m <sup>3</sup> (2015年版)

設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は、ガス検知器を設置し、局所排気装置等を設置することが望ましい。長時間取り扱う場合、吸排気が十分にとれ暴露を受けない設備にすること。換気扇や各種電気設備には防爆構造のものを用いること。  
取り扱い場所の近くには、安全シャワー、手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具 : 呼吸用保護具；有機ガス用防毒マスク  
手の保護具；保護手袋(有機溶剤用)  
眼の保護具；保護眼鏡(側板付きまたはゴーグル型)  
皮膚及び身体の保護具；保護服(長袖)。必要に応じて、保護前掛け、保護長靴。

9. 物理的及び化学的性質

	原液	噴射剤(ジメチルエーテル)
物理的状态、形状	液体	液体及び気体(容器内)
色	白色	無色透明
臭い	特異臭	僅かにエーテル臭
臭いの閾値	情報無し	情報無し
pH	情報無し	情報無し
融点・凝固点	-95.1℃(塩化メチレン)	-141.5℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	40.2℃(塩化メチレン)	-23.6℃
引火点	なし	-41.1℃
蒸発速度	情報無し	情報無し
燃焼性	情報無し	情報無し
爆発範囲(爆発限界)	上限 22vol% 下限 14vol% (塩化メチレン)	上限 26.7vol% 下限 3.4vol%
蒸気圧	46.5 kPa(20℃、塩化メチレン)	0.507MPa(20.8℃)
蒸気密度	情報無し	情報無し
比重(相対密度)	1.286(20℃)	0.661…液体(20℃) 1.6…空気=1
溶解度	情報無し	水；2.4g/100ml
n-オクタノール/水分配係数	情報無し	LogPow=0.1
自然発火温度	662℃(塩化メチレン)	350℃
分解温度	情報無し	情報無し
粘度(粘性率)	情報無し	情報無し

10. 安定性及び反応性

- 反応性 : 通常の使用・保管条件では反応性無し。
- 化学的安定性 : 通常の使用・保管条件では安定。
- 危険有害反応可能性 : 強酸化剤や高温の表面との接触、火花または裸火により発火。
- 避けるべき条件 : 高温へのばく露。強酸化剤、強塩基、アルカリ金属等との接触。静電放電などの着火源。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基、アルカリ金属。
- 危険有害な分解生成物 : 熱分解や燃焼により塩化水素、ホスゲン、一酸化炭素、フッ化水素、フッ化カルボニルなどの有毒ガスやヒュームが生成する可能性あり。

11. 有害性情報 ※情報あるもののみ

成分名	LD50M	LD50S	LC50R	皮	眼	呼	変	発	生	単	反	吸
ジメチルエーテル			164000/4H							3		
塩化メチレン	1410		15000/6H	2	2A			1A	2	1&3	1	
フッ素樹脂 (PTFE)	>11280			外				外	外			
エタノール	6200	20000 (Lo)	63000/4H	外	2B			1A	1A	3	1&2	
プロピルアルコール (IPA として)	4384	12870	68.5mg/L/4H	外	2				2	1&3	1&2	
酢酸ブチル	>3200	>5000	2000/4H	外	2B					3		

※略記号(データ及びGHS区分)

- LD50M: 経口(主としてラット)mg/kg、LD50S: 経皮(主としてウサギ)mg/kg、LC50R: 吸入(主としてラット)ppm、
- 皮: 皮膚腐食性/刺激性、眼: 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性、呼: 感作性-呼吸器または皮膚、
- 変: 生殖細胞変異原性、発: 発がん性、生: 生殖毒性、単: 特定標的臓器毒性(単回ばく露)、
- 反: 特定標的臓器毒性(反復ばく露)、吸: 吸引性呼吸器有害性、外: 区分外
- ※分類対象外、分類できないは省略

12. 環境影響情報

- 生態毒性 : ジメチルエーテル ; EC50>4000mg/L/48H(材シニコ) (IUCLID(2000))  
塩化メチレン ; LC50=27mg/L/48H(材シニコ) (SIDS(2011))  
エタノール ; EC50=5463mg/L/48H(材シニコ) (ECETOC TR 91(2003))  
イソプロピルアルコール ; EC50>1000mg/L/48H(材シニコ) (環境庁生態影響試験(1997))  
酢酸ブチル ; LC50=18mg/L/96H(ファットヘッドミノ) (SIDS(2009))
- 残留性・分解性 : 塩化メチレン ; BOD 平均分解度 13%(化審法データベース(1986))  
エタノール ; BOD 分解度 89%(既存化学物質安全性点検データ(1993))  
イソプロピルアルコール ; BOD 分解度 86%(既存化学物質安全性点検データ(1993))  
酢酸ブチル ; BOD 分解度 98%(SIDS(2009))
- 生体蓄積性 : 情報無し
- 土壌中の移動性 : 情報無し
- オゾン層への有害性 : 情報無し

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 捨てる時は、完全に使い切ってから、火気のない屋外で噴射音が消えるまでボタンを押し、または、ガス抜きキャップなどを使用しガスを抜くこと。自治体の指示が無い限り缶に穴を開けないこと。もし穴を開ける時は、完全に使い切ってから、必ず火気の無い屋外でガスの引火に十分注意して行うこと。一度に大量に噴射や穴開けしないこと。

---

汚染容器及び包装：空容器は完全に使い切ってガスを抜いたことを確認し、不燃ゴミまたは資源ごみ、産業廃棄物などとして各自治体の規則に従い廃棄すること。

---

#### 1 4. 輸送上の注意

国際規則：航空輸送は I A T A 及び海上輸送は I M D G の規則に従う。  
国連番号：UN 1 9 5 0  
国連品名：エアゾール (Aerosols, flammable, containing substances in Div. 6.1, PG III, maximum 1 litre)  
国連分類：C l a s s 2. 1 (引火性高压ガス)  
容器等級：非該当  
副次危険性等級：Div. 6.1、PG III (UN1593 Dichloromethane 含有)  
海洋汚染物質：非該当  
国内規則：陸上輸送；消防法、労働安全衛生法等の輸送について定めるところに従う。  
海上輸送；船舶安全法の輸送について定めるところに従う。  
航空輸送；航空法の輸送について定めるところに従う。  
緊急時応急措置指針番号；1 2 6

---

#### 1 5. 適用法令

消防法：消防法上非危険物  
労働安全衛生法：  
施行令第 1 8 条 (名称等を表示すべき危険物及び有害物) ジクロロメタン、エタノール  
施行令第 1 8 条の 2 別表第 9 (名称等を通知すべき危険物及び有害物) ジクロロメタン、エタノール、プロピルアルコール  
施行令別表第 1 (危険物) 可燃性のガス  
特定化学物質障害予防規則；第 2 類物質；ジクロロメタン (特別有機溶剤)  
有機溶剤中毒予防規則；非該当  
化学物質による健康障害防止指針；ジクロロメタン  
化学物質管理促進法；指定化学物質リスト (P R T R 法) 第一種；ジクロロメタン  
毒物及び劇物取締法；非該当  
高压ガス保安法：一般高压ガス保安規則 第 6 条 (技術上の基準)、施行令関係告示第 4 条  
航空法：施行規則第 1 9 4 条 危険物告示別表第 1 エアゾール (引火性のもの。毒物 (等級 3 のもの) を含むもの。毒性物質 (等級 1 又は 2 のもの) 又は毒性ガスを含まないもの。)  
船舶安全法：危規則告示別表第 1 エアゾール (引火性高压ガス。容積が 1 L 以下で、再充てんができないもの。)  
大気汚染防止法：第 2 条  
(揮発性有機化合物) ジクロロメタン、エタノール、イソプロピルアルコール、酢酸ブチルなど  
(有害大気汚染物質) ジクロロメタン  
施行令第 1 0 条 (特定物質) 非該当  
水質汚濁防止法：  
施行令第 2 条 (有害物質) ジクロロメタン、ふっ素及びその化合物  
施行令第 3 条 第 3 号、4 号など  
施行令第 3 条の 3 (指定物質) 非該当  
土壌汚染対策法：施行令第 1 条 (特定有害物質) ジクロロメタン、ふっ素及びその化合物

---

## 16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手した情報に基づいて作成していますが、記載のデータや評価に関してはいかなる保証をなすものではありません。

注意事項は、通常の取り扱いを対象としたもので、特別な取り扱いをする場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、取り扱い願います。

### 引用文献等

- (独)製品評価技術基盤機構公表GHS分類結果
  - I C S C国際化学物質安全性カード
-